

平成 31 年 4 月 27 日

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 人文学部
氏 名 田中綾乃

活動テーマ	三重県におけるアートマネジメント養成プログラムの開発
実施期間	平成 30 年 6 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>平成 30 年度は、アートマネジメント養成プログラムとして、4つのプログラムを実施すると共に、アートマネジメントのプログラムの妥当性について、有識者たちと意見交換を行い、三重県の中での実施プログラムのあり方について検討を行った。</p> <p>(A) プログラムの一つ目として、2018 年 8 月 20 日に本学で「アートマネジメント講座」を開講した（添付チラシ参照）。講座では、（公財）三重県文化振興事業団から安田賢治氏、鈴木智之氏、長野泰紀氏を、またアライドアーキテクト株式会社の藤田和重氏を講師として迎え、計 4 コマの講座を行った。また、基調講演として劇作家・演出家の平田オリザ氏を迎えて「下り坂をそろそろと下りる一文化による地方創生」を開催した。学内外から 70 名ほどの参加があり、質疑応答も含めて活発な講座となった。</p> <p>(B) プログラムの二つ目としては、2018 年 9 月 5 日は伊賀市文化会館において、19 日は南伊勢町ふれあいセンターにおいて「舞台技術講座」を開講した。講師は、三重県舞台管理事業協同組合の山中秀一氏と西山裕貴を迎え、伊賀市と南伊勢町の出張講座を開講。それぞれのホールの職員を中心に、周辺のホール職員も参加し、音響や照明につ</p>

いての講座を行った。現地での出張講座は、初の試みではあったが、それぞれのホールの舞台機構を用いた講座は大変好評であり、次年度以降も継続の声が高まっている。

(C) プログラムの三つ目として、2018年12月6日に国際交流との

共同開催として「十二単から知る日本文化の魅力」を三翠会館において開催した。日本の着物文化のレクチャーを行った後、実際に十二単の着用を体験して、日本文化の魅力を再発見するという講座は、日本人学生をはじめ留学生も含めて新鮮に受け取られた。

日本人学生の中に留学生も混じり、異文化の学生たちが交流しあいながら日本の伝統文化に触れることで、日本文化への学びを多角的に捉える機会となった。本講座は、伝統文化の魅力を現代においてどう発信していくのか、ということを考えるマネジメント講座でもある。

なお、当日の報告や写真などの詳細は、下記を参照のこと。

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2019/01/days.html>

(D) プログラムの四つ目は、2019年3月4日に本学のレーモンドホールで映画「人生フルーツ」の上映とコミュニティデザイナーの山崎

亮氏を迎えて講演会「人生をデザインする」を開催した（添付資料参考）。本学関係者でもある建築家・津端修一氏の夫婦の生活を

描いたドキュメンタリーは、2017年から全国の映画館で上映されている話題作だが、今回、この映画にも関係する本学のレーモンド

ホールでの開催とあり、地域の人たちの申し込みが多く、学内外から94名の参加となった。上映後は、山崎亮氏（studio-L代表）

が長年にわたる地域創世プロジェクトでの試みやその理論を「人生フルーツ」のテーマと絡めながら話をして、質疑応答では参加者と共に

有意義なディスカッションとなった。地域の芸術のあり方を考え直す意味でも最適のプログラムと成果になった。

なお、当日の報告や写真などの詳細は、下記を参照のこと。

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2019/03/post-1776.html>

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

(A)の「アートマネジメント講座」は、2017年度の開催は予算の関係で縮小講座であったが、2018年度は平田オリザ氏の基調講演もあり、学内外から多くの参加があった。県内では津市にとどまらず、伊勢市や松坂市、亀山市からの職員の参加もあり、県外は愛知、岡山、兵庫、静岡、九州などの公共ホールの職員の参加もあった。三重県内だけでなく、それぞれの地域における劇場のありかたを考え、劇場文化の発展と活性化に寄与する講座内容であった。

(B)の「舞台技術講座」は、昨年度までは三重県文化会館で行っていた講座であるが、初の出張講座として、伊賀市と南伊勢町で行なった。県内は東西南北に広範で、津市での講座に参加できない職員もいるので、それぞれの地域での開催は、その地域の公共ホールや劇場で質の高いアートを提供するためにもたいへん重要であり、地域活性化の貢献度が高い講座である。

(C)の「日本文化の魅力」は、日本人学生にとっても異文化である十二単を題材にして、留学生も交えて日本の伝統文化に触れることで、それぞれが自文化への理解を深めるとともに、異文化への興味が広がる講座となった。それぞれの地域の伝統文化を見直すという点で意義ある講座であった。

(D)はこれから（3月4日）の開催であるが、今後の日本のコミュニテ

ィや地域のあり方を考えるために開催するプロジェクトである。

(3) 共同実施者との連携状況

「アートマネジメントの人材育成」は、三重県の「新しいみえの文化振興」の方針でもあり、(A) や (B) 講座開催と (D) の講演会は、三重県との共催で行っている。(C) は、三重県のオリンピック・パラリンピック beyond2020 のプログラムとして昨年度から認定されている。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

アートマネジメントの考え方は、現在の日本社会においては、教育、医療、社会福祉の分野で必要とされているもので、本学でも過去3年間の文化庁の助成の活動成果を踏まえて、どのようなプログラム開発が必要となるのか引き続き考察を行っていく。

(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等)

(A) 舞台芸術振興のためのアートマネジメント人材育成講座

「劇場法時代の劇場のあり方を考える」

日程：2018年8月20日(月)

場所：三重大学メディアホール

参加人数：70名

(B) 舞台技術講座

日程：2018年9月5日(水)

場所：伊賀市文化会館

参加人数：18名

日程：2018年9月19日(水)

場所：南伊勢町ふれあいセンター

参加人数：21名

(C) 十二単から知る日本文化の魅力

日程：2018年12月6日（木）

場所：三重大学 三翠会館

参加人数：90名

(D) 「人生フルーツ」上映会&講演会「人生をデザインする」

日程：2019年3月4日（月）

場所：三重大学 レーモンドホール

参加人数：94名

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

※継続4年目以降（認定）の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な成果について記述願います。